

ソウル歴史散歩 (昌慶宮~ミアリ峠)

足立 龍枝



(A)動物園になった宮殿

1979年、初めての韓国旅行は、大阪YWCAが歴史セミナーのまとめとして組まれたツアーで、神戸のグループから3人が仲間に入り、南のプサンから4泊で北上して最後がソウル市内の見学だった。

まだ文化遺産には登録されていない昌徳宮をガイドさんにくつ付いて歩いていた。宮殿の中でも美しい風景だと言われている一角で、説明聞いている時だった。「グアー・グアー」と、鼻を鳴らすような異様な声が聞こえて来た。声のする方を見たが何もない。私の驚きようを見ていたガイドさんが「隣の動物園からの鳴き声です」と説明してくれた。アシカかオットセイかトドが水の中から鼻を鳴らしていたのだろうか。



植民地時代ソウルで祖母様が教員をしていた青丘文庫研究会の宇野田さんが書いていた卷頭エッセイを読むと、遠足行事で動物園・植物園を訪れている場面が描かれている。

1907年、李朝27代の国王になった純宗が、徳寿宮から昌徳宮に住まいを移すことになった。直後、隣接した昌慶宮に動植物園が開設された。国王純宗を慰めるという総督府の理由があった。その時に宮殿の名称も昌慶苑と変えられてしまった。国王が国民に宮殿を開放するという意味のものでは決してなかった。

登録文化財に指定された木造づくりの植物園は、現在も大温室として利用されているので当時を想像することはできるが、鳴き声が聞こえた動物園の当時の確かな場所を知りたいと思っていた。

動物の鳴き声を思い出しながら、簡単に見つかるのではないかと今年春、宮殿に寄ってみた。

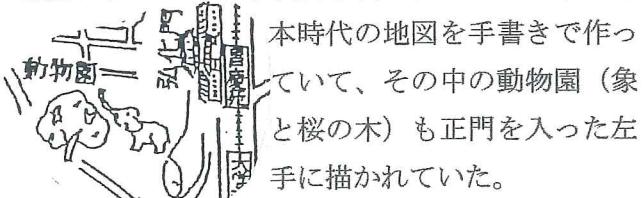
①大温室の30歳代の職員に聞いてみたら「昌徳宮と昌慶宮との境目の壙にくつ付いてありました」と。なるほど……②帰りにチケット売り場の40歳ぐらいの女性尹（ウン）スンさんにも聞いてみた。尹さんは大阪の韓国領事館に勤務していたので、分かりやすい日本語で大阪に詳しい。尹さんは「動物園は宮殿のあちこちにありましたよ」と。

2人とも親切だけれども「クエンチャナヨ」精神だ。自分で調べよう。



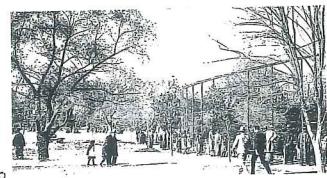
③吉田初三郎が1929年に総督府から依頼されて描いた鳥瞰図によると、正門を入って左手の方にまとまった形の大きな檻の動物園がある。

④元ソウルのY小学校同窓会が、1983年に日



本時代の地図を手書きで作っていて、その中の動物園（象と桜の木）も正門を入った左手に描かれていた。

⑤写真はがきを見ても、正門の近くにあり、金網製の大きな飼育檻が見える。見物している人が50人ぐらい写っていて、衣装から見ると、日本人ばかりのようだ。夜桜見物に人気があつたらしい。



⑥昌慶宮の案内パンフには「闕内各司址」の説明として「……観天台（天体観測台）の東側と南側の空き地は王室と直接関連がある官庁・闕内各司があった……日帝強制占領期間にこの一帯を壟して動物園畜舎を作ったが、1980年代に復元事業を推進して今の姿となった」と書かれている。

日本の動物園と同じように、太平洋戦争末期には飼料と人力不足で、猛獣を射殺したり毒殺したりした。宮殿内の防空壕に埋葬されていたが、一部は解放後掘り返されて、標本として蘇った。



(B) 成均館大学校博物館

落ち着いた若者の街を散策しながら正門にたどり着く。縦長の敷地の手前は朝鮮時代の建物（大成殿・儒生が学問をする明倫堂など）が保存されている。続いて目に入るのは「六百周年記念館」創立1396年、1996年に建てられた記念館。地下に博物館がある。入館チェックは厳しそうだが、館内は監視なし。国宝級の展示物もあったようだ。

朝鮮時代末期、明倫堂で学習している写真があった。扁額の漢字を見ていると、どうも裏焼きのように思って一応伝えたがどうなつただろうか。

地下の定員500人ぐらいの大食堂はお薦めです。メニューがおしゃれです。安いです。

六百周年記念館



(E) 史跡第10号「惠化門」説明板より

惠化門は、ソウル城郭の4小門の中で北東方向にある城門である。ソウル城郭が築城された1396年に建てられた。20世紀初期、植民地時代に電車（路面電車）の軌道を作るため、すべて撤去された。1992年に考証を通して修復したが、道路により、本来の位置から少し北の方に移された。

(D) 惠化洞ロータリー北側周辺

このあたり30年前は、堀の上に泥棒除けの金物を取り付けた家が多くた。お屋敷まちだから？私の知り合いに、貧しい中から努力を重ねて事業に成功した女性がいる。夢であった惠化洞に1980年代10年余り住んでいたので、ツアーのコースに入れて、何度も訪問した。

植民地時代に建てられた京城府尹（ソウル市長にあたる）の建物が残っている。

(E) 惠化門



(C)ソウル大病院医学博物館

アクセス

地下鉄 4号線

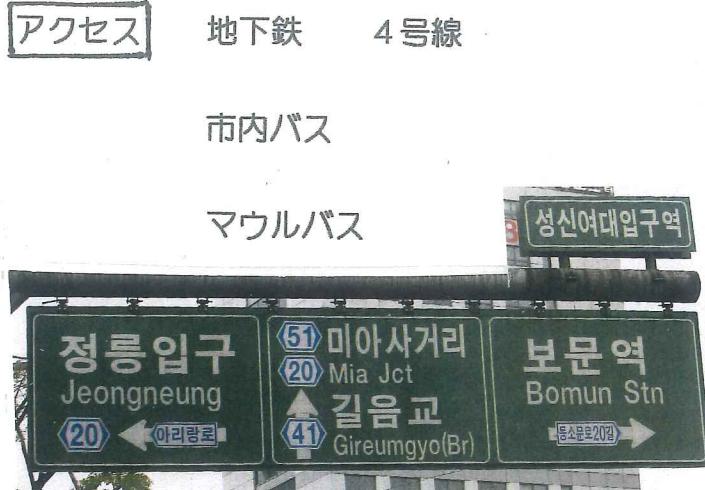
1907年 大韓帝國度（たく）支部（朝鮮總督府財務局の前身、1919年度支部は財務局に改定）が建てたもので、植民地時代に朝鮮總督府医院となり、さらに1916年に京城医学専門学校附属病院、1926年には専門学校から分離されて京城帝国大学付属病院になった。1946年からは大学の附属病院となった。現在ここはソウル大病院医学博物館として公開されている。

（「ソウルに刻まれた日本」 鄭雲鉉著より）

ソウル大学校病院では「済衆院」設立130周年を迎えるので、歴史画報集「夢・日常・追憶—ソウル大学校病院130年に込めて」を出版している。



大正時代に立てられた
「実験動物供養塔」



マウルバス



(F)

誠信女子大入口
(敦岩)

路面電車の線路跡が、道路の
中央分離帯として200m
ぐらい残っている。▲印

(F) 断腸のミアリ峠

♪ミアリヌンムルコゲ ニミトナシイビヨルコゲ
ファヤヨンギアップルガリヨ ヌンムントウゴ
ヘメイルテ タンシヌン~~~略~~~♪♪

ミアリ峠は 涙の雨が降る

愛しいこの子をおいて

連れ去る恨み雨~~~略~~~



韓国歌謡曲のレパートリーは、30年前に覚えたこの1曲のみ。韓国語で歌える唯一の曲だが、お金がかかっている。

誠信女子大駅から峠に向かって徒歩10分（バス停2つめ）道路沿いの小さな公園に「断腸のミアリ峠」歌詞記念碑が建っている。

～むくげ通信 209号 山根さんの記事によると～

歌手・李海燕が朝鮮（共和国）からの夫の帰りを待ちわびる切々とした願いを歌い大ヒットした曲である。作詞家・半夜月は愛娘をミアリ峠で亡くした悲しみが込められている。作曲は韓国歌謡界のショーベルトといわれていた李在稿。

険しい峠道も、20年前に、幅35メートルの舗装道路・長さ4370mに拡張された。